

平成18年度 海岸工学委員会 第1回幹事会 議事録（案）

日時：平成18年9月29日（金） 14:00～17:00

場所：土木学会 2階A会議室

出席者：喜岡委員長，佐藤幹事長

青木，磯部，岡安，木村，栗山，後藤，小林，榊山，柴山，清水，高木，

武若，中野，灘岡（代理：八木）橋本，福濱，藤原，間瀬，村上，

横木，熊谷（事務局）（敬称略）

議事

1. 前回議事録の確認（資料1）

- ・平成18年度 海岸工学委員会（第1回委員会）議事録が確認された。
- ・平成17年度 海岸工学委員会（第2回幹事会）議事録が確認された。

2. 報告事項（喜岡委員長，佐藤幹事長，磯部委員）

- ・海岸工学委員会の評価はAランクである。ただし，学会予算は今後も減少傾向が予測される。土木学会の予算は概ね5%のマイナスシーリングの状況にあり，海岸工学委員会の予算も削減される予定（H18は146万円予定）であることが報告された。
- ・土木学会の会員が減少傾向にあることが紹介され，会員確保に関する議論がなされた。

3. 海岸工学論文集（第53巻）についての報告・審議（資料2）（佐藤幹事長）

- ・海岸工学論文集（第53巻）では，294編が第二段査読へ進み，その内の2編が投稿されず，2編が査読途中で辞退，2編がD判定で返却となったことが報告された。
- ・その結果，海岸工学論文集（第53巻）への掲載予定論文数は288編で，採択率は例年とほぼ同様であることが報告された。
- ・論文集の価格設定について議論がなされ，今年度の価格は昨年と同様の5,000円とすることが確認された。

4. 第53回海岸工学講演会（阿南市開催）について（資料3）（中野委員）

- ・第53回海岸工学講演会の準備状況について報告がなされた。
- ・講演会翌日に津波防災シンポジウムが開催されることが報告された。これに伴い，講演会前日のシンポジウムは行わないことが確認された。
- ・講演会ではOHPプロジェクターは用意しないことが説明された。

5. 海岸工学論文賞について（資料8）（間瀬委員）

- ・編集小委員長から本年度の海岸工学論文賞の選考過程が説明された。
- ・第一段査読結果と第二段査読結果の合計点の上位5編を海岸工学論文賞の候補論文とし、幹事長、編集小委員長を含む4名が候補論文を精読し、上位3編を海岸工学論文賞の対象論文とすることが報告され了承された。
- ・来年度の海岸工学論文賞の選考方法について議論がなされた。
- ・来年度は、幹事の中から5名程度の海岸工学論文賞の選考委員を選び、合計点の上位5編程度を選考委員が精読して評価することとした。その際、査読の合計点は選考委員に通知しないで精読してもらうことを確認した。

6. 海岸工学論文集第54巻と第54回海岸工学講演会について（資料4，資料6-1）（佐藤幹事長，間瀬委員，村上委員）

- ・海岸工学論文集（第54巻）投稿論文の募集に関する学会誌への公告について、申込締切日時を3月22日（木）17時、論文原稿締切日時を5月18日（金）17時とすることを確認した。
- ・論文著者負担金は、例年と同様の30,000円を予定するが、論文集編集小委員会が中心となって減額についても検討することを確認した。
- ・来年度から変更になる論文フォーマットについて議論した。
- ・提案されたフォーマット（資料6-1-2）の一部修正して委員会に提示することを確認した。
- ・論文著者の追加、削除、並び換えについては、著者全員の自筆署名が入った文書を海岸工学論文集編集小委員会へ提出することを義務付けることを了承した。
- ・第54回海岸工学講演会の開催日は平成19年11月7日（水）～9日（金）、場所は宮崎観光ホテル（宮崎市内）で準備が進められていることが報告された。

7. 第55回海岸工学講演会について（佐藤幹事長）

- ・開催地を富山または金沢で調整することを確認した。

8. Coastal Engineering Journalについて（資料5，追加資料）（柴山委員）

- ・2006年Vol. 48のNumber3までの論文掲載目次が示され、論文の掲載状況が説明された。
- ・2004年以降の投稿状況が示され、2006年も例年と同様の投稿数が見込まれることが報告された。
- ・ICCE2006開催時にCEJへの投稿を促す活動をおこなった旨の報告がなされた。
- ・CEJの販売部数の今後の拡大について議論がなされた。その中で、海岸工学関係者

および関係機関に購読依頼の文書を配布して国内での販売促進を図ることが説明された。

9. 沿岸域研究連携推進小委員会の活動状況について（資料6-2）（青木委員）

- ・8月21日に平成18年度第1回小委員会が開催（水工学委員会沿環連対応WGとの共同開催）された旨の報告がなされた。
- ・また、ジョイントシンポが2件提案されており、開催に向けて調整中であることが報告された。（英虞湾再生プロジェクト（上野委員），土砂動態と生物生息基盤としての底質の環境評価（田中委員））
- ・今後も活動を活発化させる旨の報告がなされた。

10. 広報小委員会の活動状況について（岡安委員）

- ・重点研究の経過報告があった。さらに、過去の海岸工学論文集のスキャンデータの公開準備は、学会全体で対応が検討されているので委員会としては作業を見合わせる事、および、海岸工学論文集データベースの整備を広報小委員会の（正式な）業務とすることが報告され、了承された。

11. 第42回水工学に関する夏期研修会報告について（資料7）（小林委員）

- ・第42回水工学に関する夏期研修会の開催状況について報告がなされた。
- ・Bコース（海岸・港湾）は沿岸防災を中心とした内容で実施され、参加者数は102名（一般83名，学生19名）であった。

12. 第43回水工学に関する夏期研修会（西部地区開催）の企画について（橋本委員）

- ・第43回水工学に関する夏期研修会の準備状況が説明された。
- ・開催場所は、九州大学新キャンパス（糸島地区）で調整しているが、キャンパス周辺施設などの整備状況によっては筑紫キャンパス（総合理工学研究院）での開催も検討する旨の報告がなされた。
- ・研修会の内容については現在調整しているとの報告がなされた。

13. その他

- ・APAC 2007は中国南京で開催。論文申し込みは12月15日締め切り。
- ・Coastal Dynamics 2009 を東京で開催する。海岸工学委員会の下にLOCを組織した。

（議事録作成 村上委員）